

# エネルギー白書から

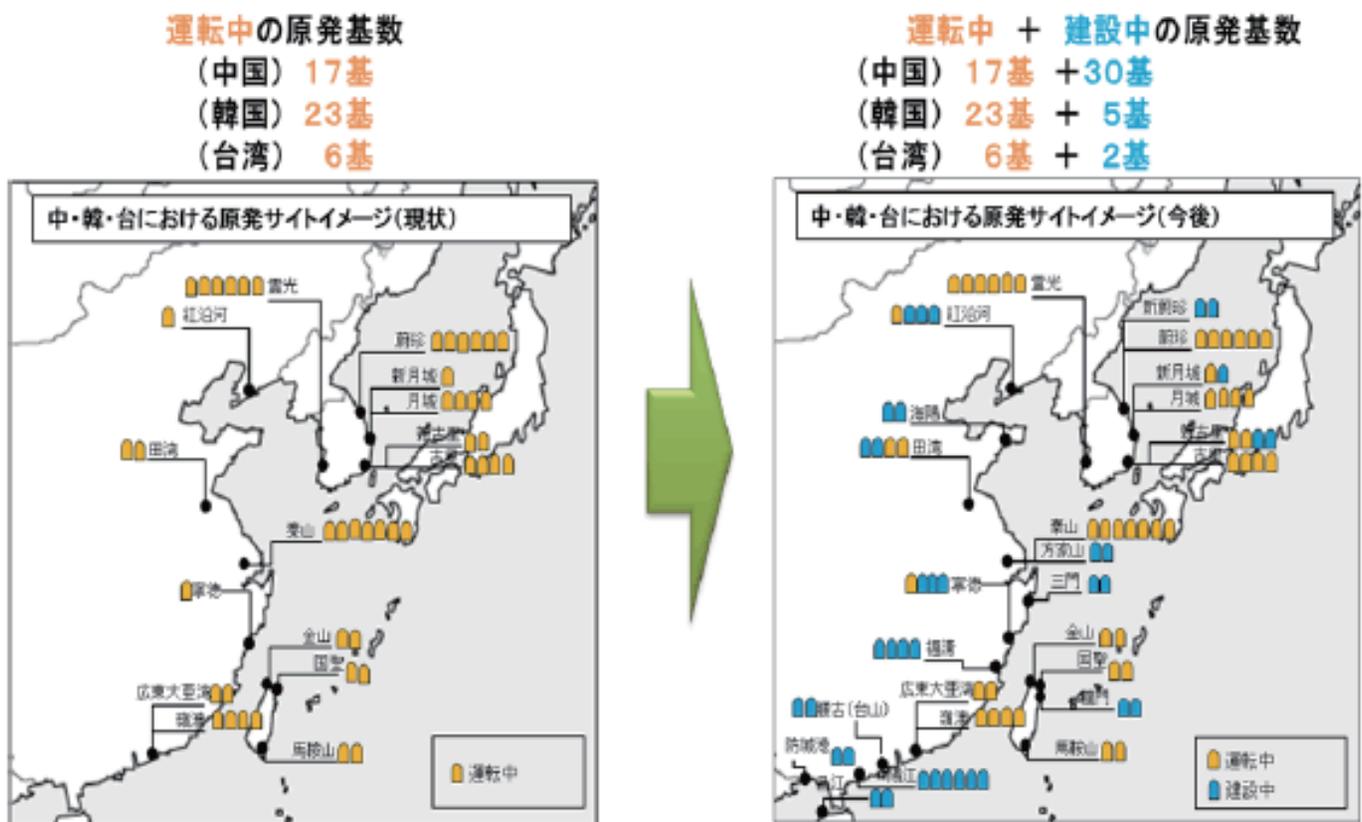
## シリーズ第二部 「3・11及びその前後から顕在化してきた課題」

### 16 原子力利用が拡大するアジア

中国、韓国で原子力発電所の建設を増大させる動きが見られるほか、アラブ首長国連邦では、2008年に策定した原子力計画に基づき10数基を、サウジアラビアでは2010年の国王令を契機に今後20年で16基建設を予定しています。また、インドにおいては、2012年に「第12次5ヶ年計画」で、2030年までに原子力発電量が6,000万kWに達する見込みであり、アジア全体で原子力発電の導入に向けた動きが進んでいます。

また、アジア以外の国をみると、米国では20基程度の原子力発電所の新設が現在計画されています。また、欧州については、英国も2基の新設を予定し、フランスも原子力比率を75%から50%に低減する一方、建設予定の原発1基の建設を続行する等原子力発電の維持・導入に前向きな国とドイツ、スペイン、ベルギーのように脱原発の方向に進んでいる国とがあります。

#### 東アジア地域における原子力発電所建設計画



(出典) 日本原子力協会「世界の原子力発電開発の動向2014年版」を基に作成